

京田辺市
まち・ひと・しごと創生総合戦略

(人口ビジョン・総合戦略)

<概要版>

平成28年3月

京田辺市

第1章 京田辺市人口ビジョン

1. 人口ビジョンの策定について

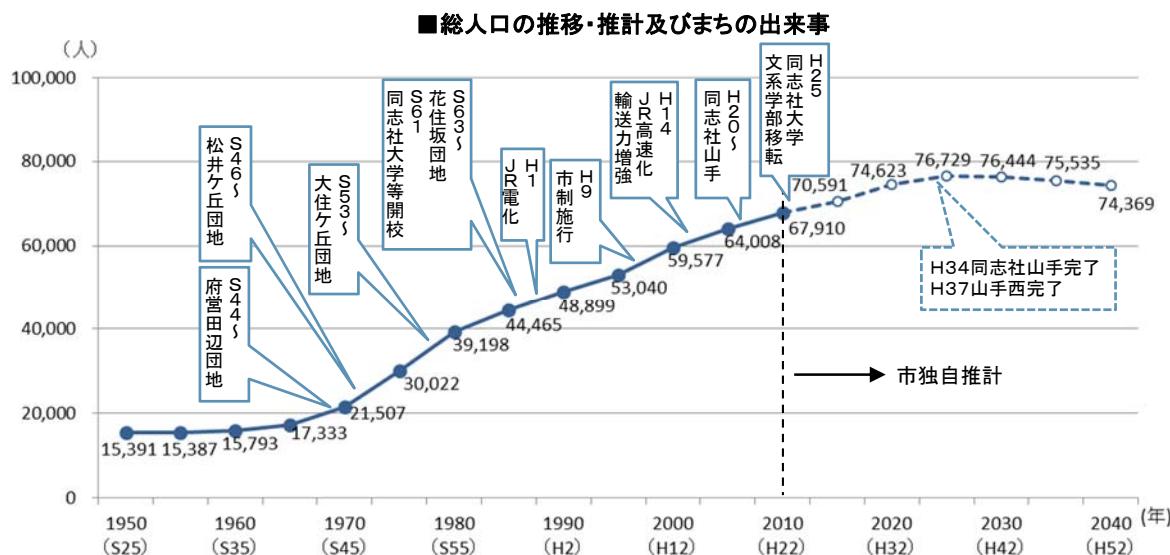
京田辺市人口ビジョンは、国の長期ビジョンを踏まえ、本市人口の現状を分析するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものであり、「京田辺市総合戦略」における、まち・ひと・しごと創生の実現に向けた効果的な施策を企画立案する上での基礎となるものです。

推計年次は、2040（平成52）年とします。（将来展望においては、2060（平成72）年まで）

2. 京田辺市の人口動向分析

【総人口の推移】

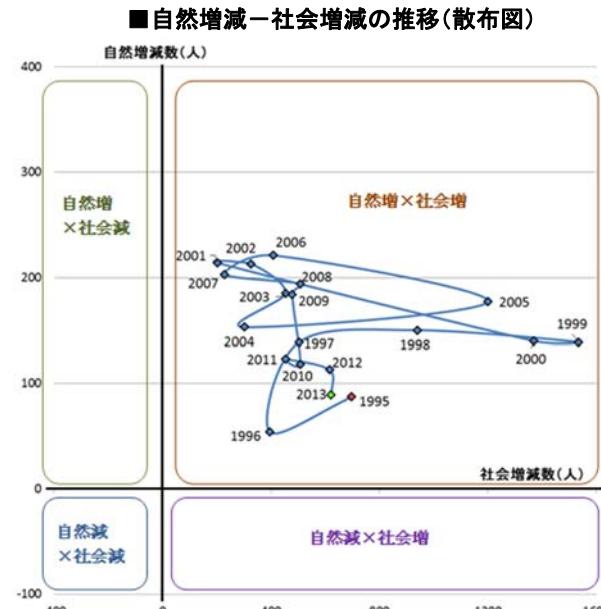
本市の人口は、1965（昭和40）年以降、北部地域における大規模な住宅地開発などにより急激に増加しています。近年では、多くの市町村が人口減少に転じている中、本市は現在も増加傾向にあります。市の独自推計によると、人口増は約10年後の2025（平成37）年まで続き、約77,000人まで達した後、緩やかに減少していきます。



【総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響】

縦軸に自然増減、横軸に社会増減をとり、各年の値をプロットしてグラフ化し、自然増減と社会増減の影響を表したもののが右図です。

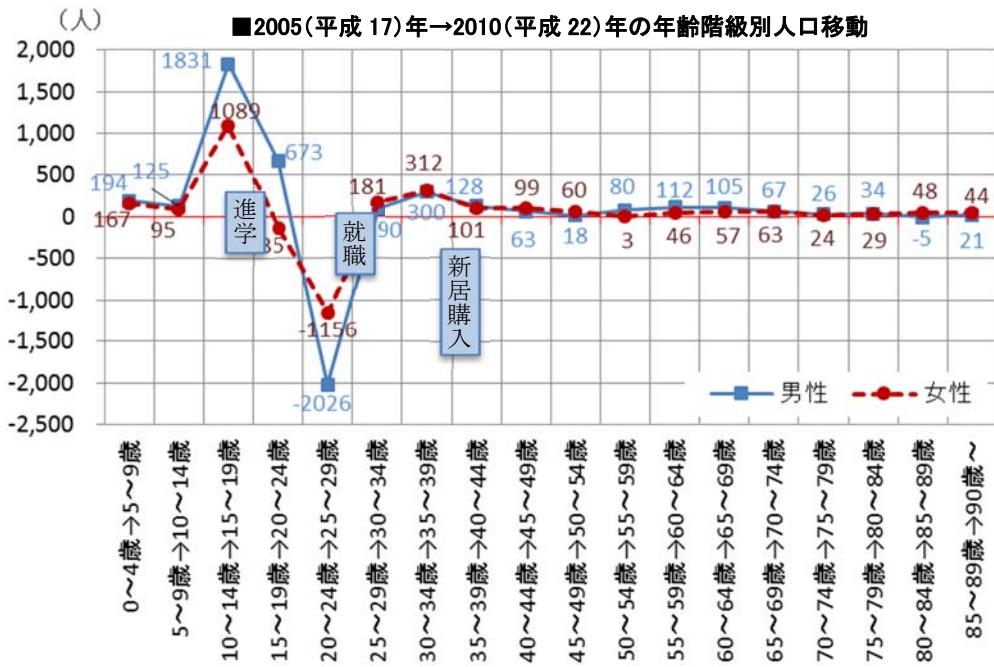
本市においては、自然増と社会増が続き、ともに総人口の増加に寄与してきましたが、自然増に比べ社会増の影響が大きく、人口増に大きく寄与してきたことがわかります。



出典：住民基本台帳

【年齢階層別の人団移動分析】

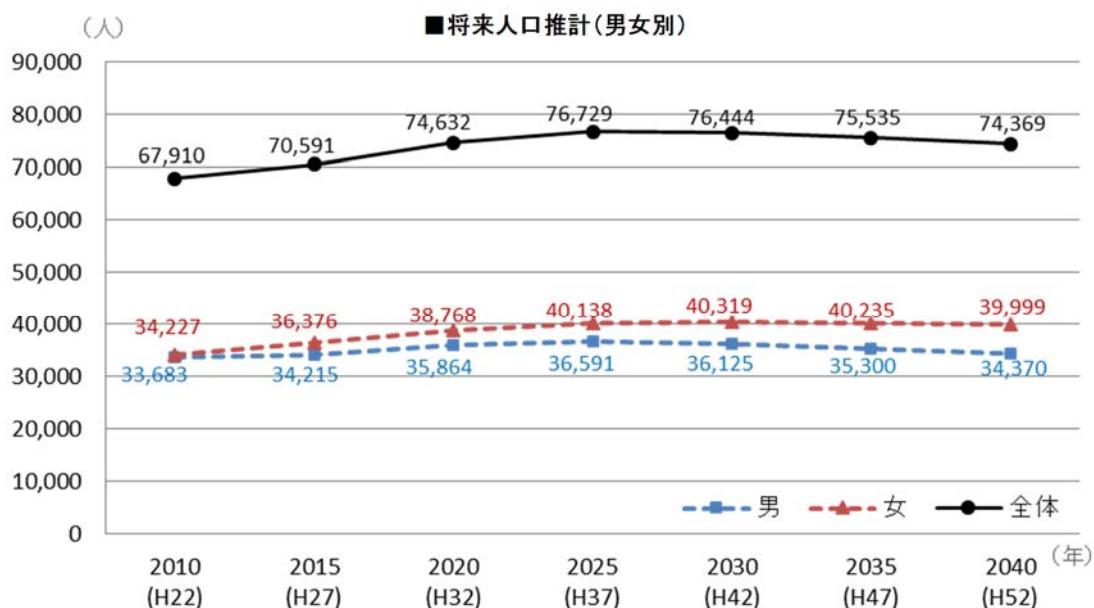
2005(平成17)年及び2010(平成22)年国勢調査における5歳年代別人口の増減数(当該年齢層人口)-(5年前の5歳年少層人口)をみると、男女とも、15~19歳層及び20~24歳層で大幅な増加となっています。これは、同志社大学等への進学による新入生の転入の影響が大きいものと考えられます。一方で、25~29歳層は大幅な減少となっています。これは、同様に同志社大学等の卒業生やその他市外に通学する市内学生の就職に伴う転出の影響と考えられます。それ以降、35~39歳層でやや増加分が多くなるが、子育て期のファミリー層の転入の影響と考えられます。



出典：国勢調査

3. 将来人口の推計

市独自の人口推計結果は以下のとおり、2025(平成37)年に76,729人のピークとなり、以降は2040(平成52)年の74,369人まで緩やかに減少するものと推計されます。



4. 将来人口の検討と課題整理

【将来人口と人口構成】

本市の将来人口については、過去の人口動向と同志社大学等や大規模宅地開発のほか、関西文化学術研究都市の一翼を担う都市としての特性を反映した市独自推計を基本とします。

本市の人口構成の特徴は、15～24歳層の学生による人口増であり、30～44歳層の開発による人口増及び団塊ジュニア層（1970年代前半に生まれた世代）の存在で示されます。

【人口変化が本市の将来に及ぼす影響】

本市の人口は、10年後をピークに緩やかな減少に向かい、少子高齢化が顕在化していきます。また、交通利便性の高い鉄道駅周辺地域への人口流動が進むなど、人口格差も大きくなることも想定されます。こうした人口の変化は、①生産力の低下と生産年齢層の負担増、②公共施設の機能の見直し、③都市環境への影響、④まちの賑わいの低下、⑤市財政への影響としてあらわれるものと想定されます。

5. 人口の将来展望

【目指すべき将来の方向】

①若い世代の結婚・出産・子育ての希望を実現します。

結婚、出産、子育ては、新たな居住地選択を迫られる重要な時であり、定住したくなるよう、「子育て世代が住みたいまちナンバーワン」を目指した取組みを進めます。

②将来にわたり魅力的で活力のあるまちづくりを進めます。

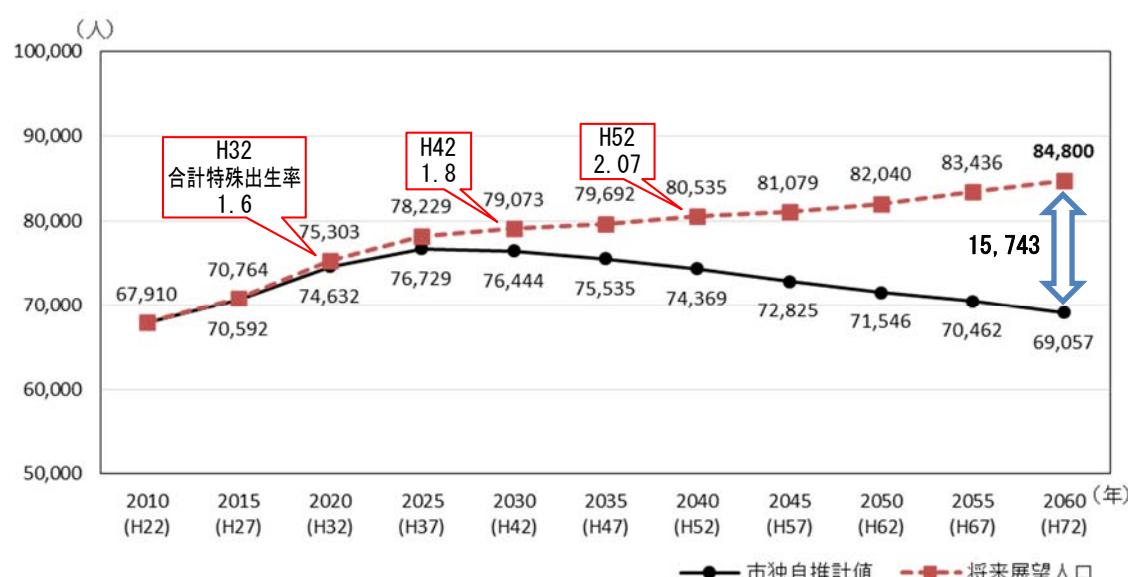
現在の居住者が、より安心して、また快適に過ごすことのできる環境を整え、生涯にわたり住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

③次世代を担う子どもたちのふるさと京田辺を創造します。

大都市近郊にあり、豊かな自然環境がある本市が、子どもたちにとって、いつまでも居たい、いつでも暖かく迎えてくれる「こころのふるさと京田辺」の実現を目指します。

【人口の将来展望】

人口の将来展望は、市独自推計に自然増減と社会増減の仮定値を当てはめたシミュレーション検討から、以下のように設定します。



第2章 京田辺市総合戦略

1. 総合戦略の位置付けと計画期間

2014（平成26）年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が成立し、同年12月に国において、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。

国では、少子高齢化の進行に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、豊かな生活を安心して営むことができる地域社会（「まち」）を形成すること、地域社会を担う多様な人材（「ひと」）の確保を図ること、及び地域における魅力ある多様な就業の機会（「しごと」）を創出することの一体的な推進、「まち・ひと・しごと創生」を図ることとしています。

また、まち・ひと・しごと創生については、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組む必要があることから、全市町村に対して地方版総合戦略の策定を要請しています。市町村には、地域の特色や地域資源を生かし、住民に身近な施策を幅広く地方版総合戦略に盛り込み、実施することが期待されています。

京田辺市では、国や京都府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、本市の人口の将来展望を示す「京田辺市人口ビジョン」を踏まえ、平成27年度から5年間の施策の方向性を位置付ける「京田辺市総合戦略」を策定します。

本総合戦略の計画期間は、平成27年度から平成31年度まで5年間とします。

2. 総合戦略における基本視点

京田辺市総合戦略では、「子育て世代が住みたいまちナンバーワンへの取組み」による人口の維持と人口減少への対応、「京田辺市の地域特性や強みを最大限に生かした取組み」による地域の活性化、「魅力あふれる“ふるさと京田辺”の創造」による京田辺に愛着を持ち次代を担うひとづくり、の3つを基本視点として定めます。

総合戦略における3つの基本視点

1 子育て世代が住みたいまちナンバーワンへの取組み

→ 人口の維持と人口減少への対応

2 京田辺市の地域特性や強みを最大限に生かした取組み

→ 市の地域資源や地域特性を最大限活用した地域の活性化

3 魅力あふれる「ふるさと京田辺」の創造

→ 京田辺に愛着を持ち次代を担うひとづくり

3. 基本目標と施策体系

今後予測される人口減少の進行を抑え、少子高齢化社会に的確に対応する京田辺市の特色を生かした施策の実施により、将来にわたって活力あるまちを目指します。

国や京都府の総合戦略を踏まえ、京田辺市総合戦略の基本目標を次のように設定します。

基本目標

1 子どもを生み育てやすく、豊かに学べるまちづくり

若い世代の多様なライフデザインの選択を可能にする、子育て環境や男女ともいきいきと働ける環境をつくり、子育てを地域で応援する環境をつくることで、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます。また、子どもの個性や能力を伸ばせる充実した教育環境を整備し、心豊かな子どもを育てる教育を推進します。

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.35 (平成 24 年)	⇒ 1.6 (平成 32 年)
出生数 (5年間の合計)	2,823 人 (平成 22~26 年)	⇒ 3,105 人 (平成 27~31 年)

2 職・住が近接した働きやすいまちづくり

京田辺の高い交通利便性を生かし、若者や女性、高齢者や障がいのある人など、だれもが充実したワーク・ライフ・バランスを実現できるよう支援します。また、だれもが能力を生かして活躍できるよう、就業・社会参加を支援します。

高速道路ネットワークのハブ的な立地や学研都市の特色を生かした産業振興や事業活動を行いやすい環境整備により、安定した雇用の確保に努めます。

数値目標	基準値	目標値
従業者数	21,992 人 (平成 24 年)	⇒ 23,000 人 (平成 31 年)

3 京田辺へ新たな人の流れをつくるまちづくり

歴史・文化など地域の特色を生かした観光の振興や、広域的な地域づくり、地域間交流の推進により、新しい人の流れをつくります。

数値目標	基準値	目標値
観光入込客数	211 千人 (平成 25 年)	⇒ 10%増加 (平成 31 年)
観光消費額	655 百万円 (平成 25 年)	⇒ 5%増加 (平成 31 年)

4 京田辺をふるさととして誇り、安心して暮らせるまちづくり

個性と魅力あふれる地域づくりを推進し、まちへの誇りと愛着をもち、将来にわたって安全・安心に暮らせるまちをつくります。

数値目標	基準値	目標値
定住意向「ずっと住み 続けたい」の割合	69.2% (平成 25 年度)	⇒ 75% (平成 31 年度)

施策体系

基本目標1

子どもを生み育てやすく、豊かに学べるまちづくり

- ① 若い世代の多様なライフデザインの実現
【施策内容】 ●ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の促進 ●出会い系・婚活に対する総合的な支援
●子育てをしながら働きたい人への就業支援 ●男性の家庭生活や子育てへの参画促進 など
- ② 子どもを生み育てやすい環境づくり
【施策内容】 ●妊娠・出産・子育ての様々なニーズに対応する切れ目のない支援 ●子育て世帯の経済的支援
●各種保育サービスの充実、保育基盤の充実 ●子育て教育・相談の充実 など
- ③ 充実した教育環境の整備
【施策内容】 ●多様なライフステージで活躍できる子どもの育成 ●特色ある学校づくり ●幼稚園・小学校・中学校と同志社大学等との連携 ●学習環境の整備充実 ●学校給食の充実 など
- ④ 子育てを応援する地域社会づくり
【施策内容】 ●放課後における子どもたちの多様な体験・活動が行える環境づくり ●地域団体による子ども・青少年の居場所づくり支援 ●保育所・幼稚園・小学校・中学校と地域活動の連携強化 など

基本目標2

職・住が近接した働きやすいまちづくり

- ① だれもが能力を生かし活躍できる環境づくり
【施策内容】 ●ハローワーク等との連携による就労支援の実施と地元雇用の促進 ●ひとり親家庭の自立支援
●高齢者・障がいのある人の社会参加・就業促進 ●高齢者の居場所づくり など
- ② 地域の特色を生かした産業の活性化
【施策内容】 ●大学・研究機関と連携した新産業創出・起業の環境整備・交流促進 ●創業支援体制の構築と相談窓口の開設 ●産・学連携支援 ●同志社大学連携型起業家育成施設の有効活用 など
- ③ 事業活動を行いややすい環境整備
【施策内容】 ●工業系土地区画整理事業の促進 ●けいはんな新産業創出・交流センター支援 ●市内企業の販路開拓支援 ●企業と行政の懇談の場づくり ●商工業の活性化に向けた環境整備 など

基本目標3

京田辺へ新たな人の流れをつくるまちづくり

- ① 歴史・文化など地域資源を生かした観光の振興
【施策内容】 ●お茶の文化・魅力を体感する交流圏の形成 ●観光振興拠点機能強化 ●歴史遺産や伝統行事を生かした広域観光ネットワークの形成 ●テーマ性のある観光地づくり など
- ② 交流・地域連携
【施策内容】 ●同志社大学等との連携協力の強化 ●大学と連携した地域づくり・人材育成 ●市民・学生と連携したまちづくり ●多世代交流や地域間交流の促進 ●地域で支え合う仕組みづくり など

基本目標4

京田辺をふるさととして誇り、安心して暮らせるまちづくり

- ① 個性と魅力あふれる地域づくりの推進
【施策内容】 ●学術研究都市エリアの整備 ●生活利便性の高いコンパクトシティの形成 ●市内の公共交通路線の利便性向上 ●人を呼び込む住環境整備 ●鉄道輸送力増強、利便性向上 など
- ② まちへの誇りと愛着を育む取組み
【施策内容】 ●市民参画による公園・緑地の管理、美化活動の促進 ●コミュニティ活動・市民活動の活動拠点づくり ●郷土の歴史に親しみ学ぶ機会の充実 ●歴史・文化情報の発信 など
- ③ 安全・安心な地域づくり
【施策内容】 ●地域医療体制の充実 ●地域防災の人材育成と体制強化 ●災害に強い都市づくり ●危機管理体制の強化 ●交通安全対策の推進 ●地域防犯対策の推進 など
- ④ 生涯にわたってだれもが学べるまちづくり
【施策内容】 ●同志社大学等との連携事業 ●様々な生涯学習講座の開設 ●多様なニーズに対応した学習機会の充実 ●文化振興計画の推進 ●まちづくりを担う幅広い人材の育成・活用 など



京田辺市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(人口ビジョン・総合戦略) <概要版>

平成28年3月発行
京田辺市 企画政策部 企画調整室
〒610-0393 京都府京田辺市田辺80番地
電話：0774（63）1122（代表）
URL：<http://www.kyotanabe.jp/>